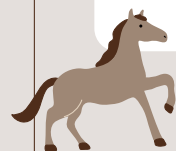


編集後記



NPOが企画・運営する「和装家」が7月11日に4千人をこえてから、わずか5か月で5千人になりました。簡略化が著しい現代、五感を澄まして、ゆったりした時間を楽しむ華道や、茶道が少しずつ衰退する中、その基本にある「和装」を楽しむ方々が増えていることは、とても素晴らしいことだと思います。次のお出掛けも、ぜひきもので!

四季誌和装家編集長(NPO理事) 佐藤正樹

和装家・読者アンケート

ご感想、ご意見などをお寄せください。

Q1 四季誌和装家11号のご感想、ご意見、応援コメントなどをご自由にご記入ください。

応募方法

送り方は3通り

方法① スマホで写真を撮って公式LINEに送信する

方法② スマホ写真を info@omotenashi.or.jp に送信する

方法③ **03-3661-0007** にファクスする



ご住所 〒 -	
お名前	連絡先
	メールアドレス @

四季誌
和装家

次号「春号」vol.12は、4月15日発行予定です。
みなさまのお手元には、4月20日ごろ到着予定です。



ギャラリー C,SPACE で開かれた、日本の美意識や技術を紹介する展示イベントに出展



ロンアン省の日越文化村でも年間を通じて四季折々の着物を展示



NIHONWASOU TRADING CO., LTD. の13周年記念パーティー



パーティーにはNPO理事長の吉田も出席

ホーチミンの季節は雨季と乾季のふたつです。5月から11月は雨季で蒸し暑く、午後にはスコールが降ることも多いです。12月から4月は乾季で雨が少なく、さらっとした気候が続きます。冬の冷たさはほとんどなく、街路樹の緑と花が年中あふれています。まさに、常夏の街々という感じです。

そんな南国の陽ざしの下、ホーチミンはいま成長の真只中にあります。2025年のベトナム経済は実質GDP成長率が6%を超える水準といわれ、製造業や観光などが好調です。ホーチミンメトロも本格運行を始め、交通の選択肢が広がりました。新しい国際空港の建設も進み、国際都市としての発展が続いています。

そのような中で、ホーチミン事務所では、人と人とのつながりを大切にしながら、着物文化を伝える活動を続けています。海外での活動では、日本の伝統をただ紹介するだけでなく、「なぜ美しいのか」「どんな想いが込められているのか」を現地の人々に感じてもらうことを大切にしています。言葉や文化が違ってても、布一枚の中にある精神は、自然と心に届くようです。

昨年10月23日には、正会員である日本和装ホールディングスの子会社NIHONWASOU TRADING CO., LTD.の13周年記念パーティーが、都心のオアシス「バンタンパーク(Van Thanh Park)」で開かれました。14社の縫製工場オーナーが浴衣姿で集まり、社員もアオザイや浴衣を着用。日越両国の文化を尊重し合う温かい会で、理事長の吉田からは、手縫いの着物縫製技術を支えるオーナーとスタッフへのお祝いの言葉があり、「きものを世界遺産へ」という思いを新たにしました。

また、10月23〜25日にホーチミン市旧7区のギャラリーCSPACEで開かれた、日本の美意識や技術を紹介する展示イベントにも参加し、当事務所所蔵の飛翔鶴文様(ひしうつるもんよう)の打掛(NIHONWASOU TRADING 解き再縫製)を展示しました。

パナソニックやダイキンなど大手企業も出展する商業ベースの催しの中で、伝統工芸の美しさを伝えられたのではないかと思います。立ち止まって眺めてくださる方も多く、改めて着物の存在感を感じました。

さらに、ロンアン省の日越文化村でも年間を通じて四季折々の着物を展示し、日本の季節の移ろいを現地の方々に紹介しています。日本の四季の美しさが静かに伝わっているように感じます。

そして、今年3月には恒例の「ジヤパンベトナムフェスティバル」にも出展予定です。浴衣の着付け体験などを通じて、日本とベトナムの心が少しでも近づくよう願っています。

ここホーチミンから、今年も和とアオザイの風をお届けします。

特定非営利活動法人きものを世界遺産にするための全国会議
ホーチミン事務所 藤井健太郎

「アオザイ便り」
ベトナムから

アジアの美人姉妹「きもの」と「アオザイ」
そこには**共通の美意識と両国文化への尊重があります。**

WASOU TRADING 解き再縫製)を展示しました。

パナソニックやダイキンなど大手企業も出展する商業ベースの催しの中で、伝統工芸の美しさを伝えられたのではないかと思います。立ち止まって眺めてくださる方も多く、改めて着物の存在感を感じました。